

## 1. 略歴

1991年3月	東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程卒業
1991年4月	東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程入学
1994年3月	同 修了
1994年4月	東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専攻博士課程進学
1994年10月	ローマ第2大学トール・ヴェルガータ文学部単科生（イタリア政府給費留学生、～1995年3月）
1995年4月	在アテネ イタリア国立考古学研究所大学院専門課程入学（イタリア政府給費生、～1998年3月）
1998年12月	同 修了、ディプロマ取得
2000年3月	東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専攻博士課程単位取得満期退学
2001年4月	日本学術振興会特別研究員（PD）（～2004年3月）
2002年5月	博士（文学）取得（東京大学）
2005年9月	国立西洋美術館学芸課リサーチフェロー
2006年8月	東北大学大学院文学研究科助教授
2007年4月	同 准教授
2017年4月	同 教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2021年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

古代ギリシア・ローマ美術史

### b 研究課題

- (1) ポンペイの都市・住居・美術
- (2) 帝政前期のローマ美術の中央から周縁への伝播と地域性
- (3) 3D形状比較を用いた古代彫刻工房の実態の解明
- (4) 美術展覧会のVRアーカイブとVR美術鑑賞
- (5) 古代ギリシア・ローマ美術における神像や肖像

### c 概要と自己評価

概要：2020～21年度は(1)のポンペイ関係の調査研究にかなりの時間を費やした。(2)に関しては、地中海世界における知の動態に関する科研プロジェクトに参加し、ローマ帝政前期における皇帝肖像の伝播や地方工房の形成について、英語と日本語で論文を執筆した。(3)に関しては、クロアチアとエフェソスで出土したブロンズ像の解析を行ったが、古代彫刻工房というよりも近代の修復にかかわる情報が多く得られる結果となり、美術品の修復に関するシンポジウムで発表した。(4)に関しては、上記のポンペイ展全体を8KでVRアーカイブ化するための撮影を、朝日新聞社との共同プロジェクトとして、情報理工学系研究科谷川智洋特任教授、本センター人文情報学部門の大向一輝准教授の協力のもとに行った。

自己評価：2022年1月から東京国立博物館で開催された『特別展ポンペイ』の監修を務め、作品選定や構成、図録作成などにまで大きく関わったこと、10年来滞っていた翻訳書の出版がようやくかなうこととなり、その作業に多くの時間をとられたことに加え、コロナ禍の中で海外調査を行えなかったこともあって、(5)に関してはあまり進めることができなかった。今後、力を入れていく予定である。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、秋山聰、田中正之編、『西洋美術史 美術出版ライブラリー 歴史編』、2021.12

#### (2) 論文

芳賀京子、「神像を見る・神像が見守る——古代アテナイの場合」、『空間史学叢書（特集：まなざしの論理）』、3、27-54頁、2020.10

芳賀京子、「古代ギリシア・ローマ美術における「古典」」、『古典主義再考』、1、21-48頁、2021.1

芳賀京子、「神々と人の姿 古代ギリシア・ローマ美術」、『文明と哲学』、13、46-63頁、2021.3

芳賀京子、「古代ギリシアの聖域の記述と信仰の記憶」、『文化交流研究』、34、25-32 頁、2021.3

Kyoko Sengoku-Haga, "Diffusion of Roman Imperial Portraits," in Y. Suto (ed.), *Transmission and Organization of Knowledge in the Ancient Mediterranean World*, pp. 87-104, 2022.1

芳賀京子、「ポンペイの住人と住宅装飾—神々とトロイア戦争」、『特別展 ポンペイ』、東京国立博物館、214-220 頁、2022.1

芳賀京子、「《アルテミス・エフェシア》 偶像に宿る聖性の継承と分与」、木俣元一・佐々木重洋・水野千依編『聖性の物質性—人類学と美術史の交わる場所』、325-347 頁、2022.3

(3) 学会発表

国内、芳賀京子、「前5世紀のギリシアにおける詩人肖像の奉納」、古代ギリシア文化研究所2020年度研究集会、2020.11.8

国内、芳賀京子、「西洋古代彫刻の修復—大理石像とブロンズ像—」、第74回美術史学会全国大会シンポジウム「修理と美術史学 残すもの、除くもの、補うもの」、神戸大学（オンライン）、2021.5.15

国内、Kyoko Sengoku-Haga, "Keener than Connoisseurs' Eyes: Analysis and Experience of Ancient Art through Virtual Reality (VR)," JADH 2021 (The 11th Conference of Japanese Association for Digital Humanities), Digital Humanities and COVID-19, 2021.7.7

(4) 監修

芳賀京子、『特別展 ポンペイ』、東京国立博物館、2022.1

(5) 総説・総合報告

芳賀京子、「古代イタリア美術」、『世界歴史大系イタリア史』、1、274-285 頁、2021.3

(6) 翻訳

エリカ・ジーモン著、芳賀京子・藤田俊子共訳、『ギリシア陶器』、中央公論美術出版、2021.3

(7) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、芳賀京子、分担者、「古代地中海世界における知の動態と文化的記憶」、2018～

文部科学省科学研究費補助金、芳賀京子、研究代表者、「ヘレニズム後期からローマ帝政初期への転換期における彫刻工房の地域流派の研究」、2020～

文部科学省科学研究費補助金、芳賀京子、分担者（東大内に代表者あり）、「ソンマ・ヴェスヴィアーナ遺跡発掘の成果と文化史的展望—古代の記憶の回復をめぐる—」、2020～

文部科学省科学研究費補助金、芳賀京子、分担者（部局内に代表者あり）、「形象の記述と記録についての比較美術学的研究」、2021～

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東北大学、学部「美学・西洋美術史各論」、大学院「芸術学特論」、2021.7（集中講義）

(2) 学会

国内、美術史学会、常任委員、2020.5～

国内、西洋古典学会、委員、2019.4～

国内、地中海学会、大会準備委員、2020.6～2022.6